

I 河川の現状と課題

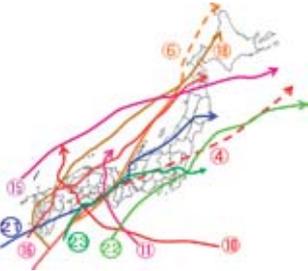
【2】気候変動による影響

大規模豪雨災害が頻発

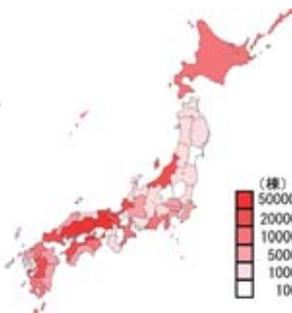
平成16年度

- これまでの記録を超える梅雨期の集中豪雨や10個の台風上陸等により、全国各地で水害・土砂災害が頻発
- 死者・行方不明者240名、浸水家屋199,371棟

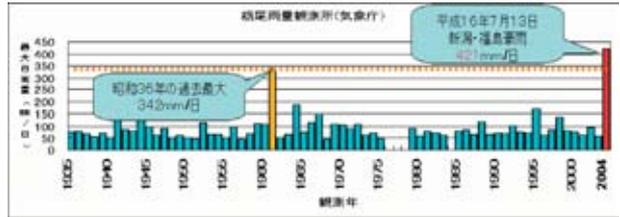
【上陸した台風（10個）の経路】



【各都道府県の被害棟数】



【新潟豪雨（日最大雨量を更新）】



台風16号
高潮災害（香川県高松市）

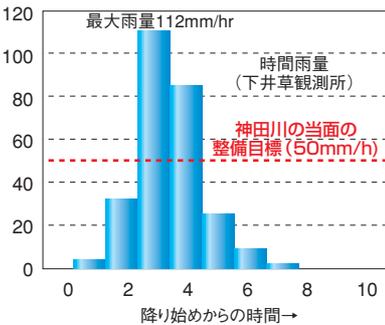


台風23号（兵庫県豊岡市：円山川）

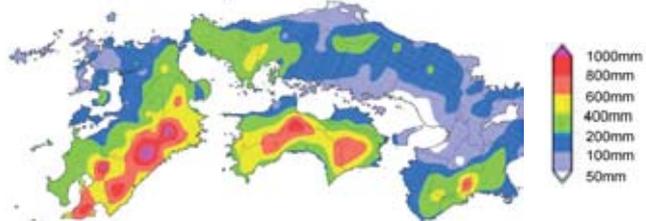
平成17年度

- 首都圏で時間雨量100mm以上、九州南部で総雨量1,000mm以上の豪雨
- 死者・行方不明者数41名、浸水家屋32,581棟

(mm) 【台風14号による総雨量の分布】



【台風14号による総雨量の分布】



半地下ビルの浸水状況
東京杉並区（平成17年9月）



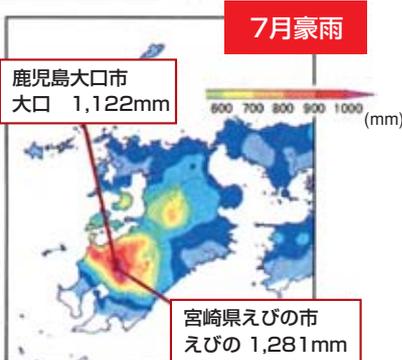
台風14号の豪雨による土石流災害
鹿児島県垂水市（平成17年9月）



大淀川支川大谷川の越水による浸水被害
宮崎市下小松【しもこまつ】地区
（平成17年9月）

平成18年度

- 九州南部では昨年に続き総雨量1,000mm以上の豪雨
- 死者・行方不明者数42名、浸水家屋25,804棟



鹿児島県湧水町（平成18年7月）

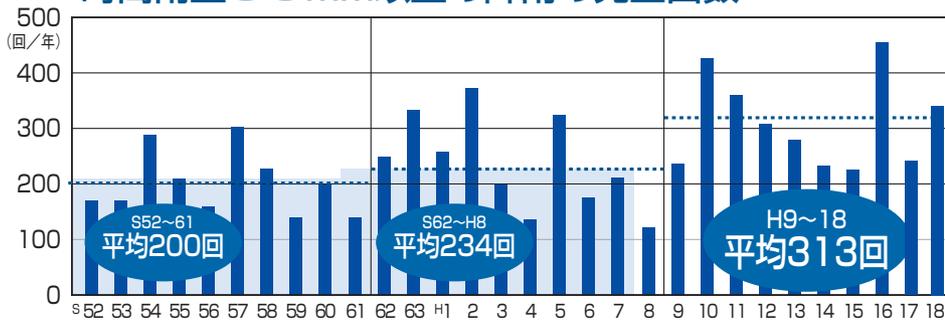


7月豪雨による土石流災害
長野県岡谷市（平成18年7月）

気候変動による影響

1時間に50mmや100mmを越す集中豪雨が増加

時間雨量50mm以上の降雨の発生回数



1時間降雨量における年間延べ件数(全国アメダス地点 約1,300箇所より)



平成16年10月 横浜駅周辺の浸水状況



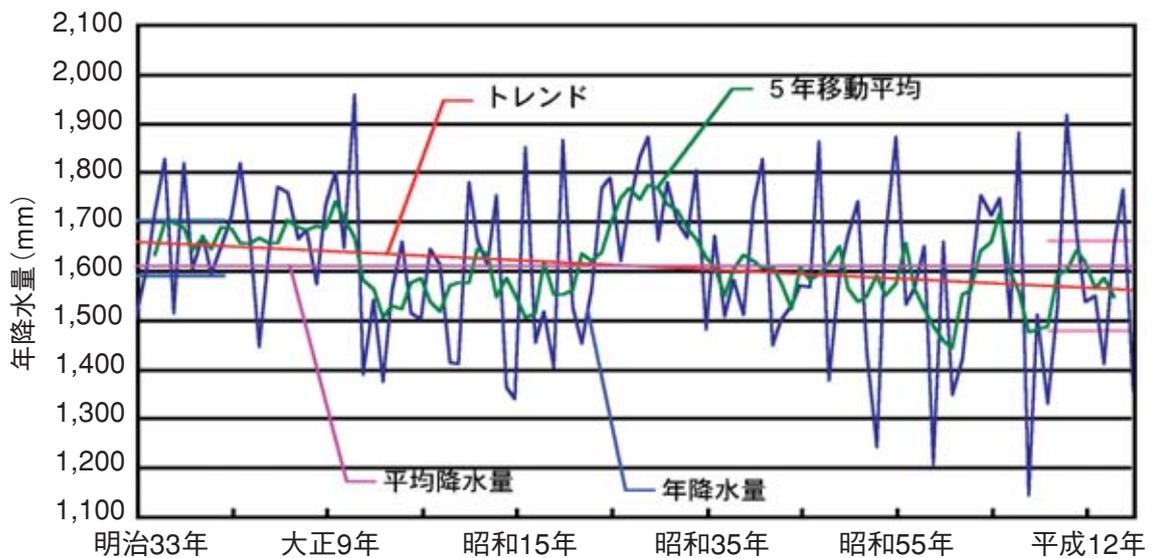
平成17年9月 妙正寺川(東京都中野区)

時間雨量100mm以上の降雨の発生回数



資料) 気象庁のデータを基に国土交通省作成

年降水量は減少傾向、少雨と多雨の変動幅が増大



出典：平成19年版「日本の水資源」(国土交通省土地・水資源局水資源部)に河川局が加筆

I 河川の現状と課題

気候変動による影響

気候変動等の影響による、集中豪雨等の増加や海面上昇、異常渇水の増加などが今後も続く見込み

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)

※IPCC第4次評価報告書第1作業部会第10回会合(H19.1.29~2.1)で承認

- 人為起源の温室効果ガスの増加が温暖化の原因とほぼ断定
- 最近12年は1850年以降で最も温暖な12年
- 21世紀末の平均気温上昇と平均海面水位上昇

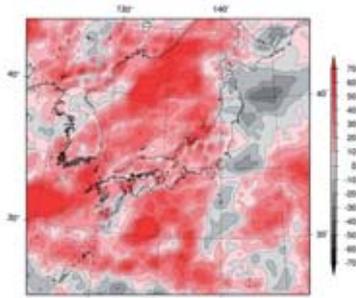
	環境の保全と経済の発展が地球規模で両立する社会	化石エネルギー源を重視しつつ高い経済成長を実現する社会
気温上昇	約1.8℃(1.1℃~2.9℃)	約4.0℃(2.4℃~6.4℃)
海面上昇	18~38cm	26~59cm

- 2030年までは、社会シナリオによらず10年当たり0.2℃の昇温を予測
- 熱帯低気圧の強度は強まると予測
- 北極海の晩夏における海水が、21世紀後半までにほぼ消滅するとの予測もある
- 大気中の二酸化炭素濃度上昇により、海洋の酸性化が進むと予測

▶100年後の気候変化を想定すると

■夏期の降雨が増加し、水害リスクが増大

- 7月降水量比(2081~2100年平均値/1981~2000年平均値)

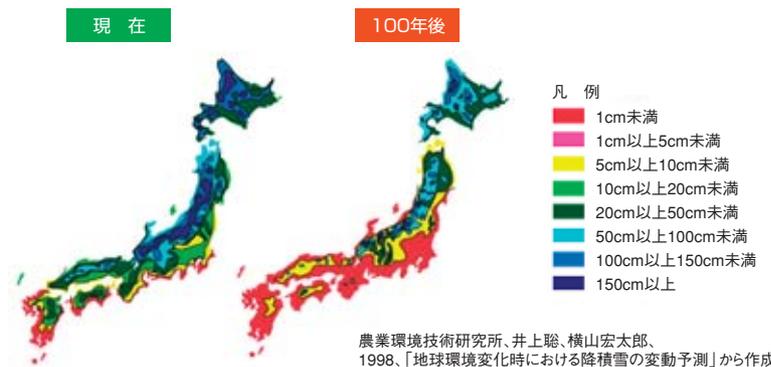


資料)異常気象レポート2005(気象庁)を元に作成

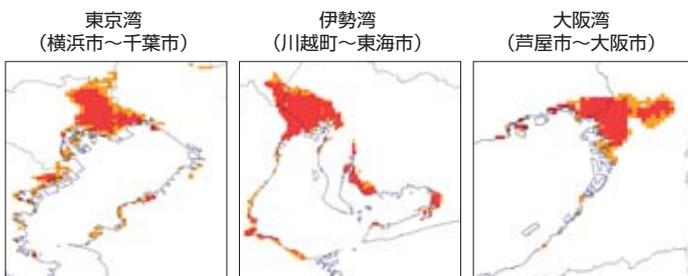
■積雪の大幅な減少により、融雪期の水資源賦存料が減少

- 寒候期最深積雪分布図

西日本では積雪がほとんどなくなり、日本海側では最深積雪深100cm以上の地域が大幅に減少



■平均海面が59cm上昇した場合、三大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾)のゼロメートル地帯の面積、人口が増大



	現 状	海面上昇後	倍率
面積(km ²)	577	879	1.5
人口(万人)	404	593	1.5

- : 現 状
- : 海面上昇後

※国土数値情報をもとに作成
 ※3次メッシュ(1km×1km)の標高情報が潮位を下回るものを図示。
 面積、人口の集計は3次メッシュデータにより行っている
 ※河川・湖沼等の水面の面積については含まない
 ※海面が1m上昇した場合の面積、人口の60%増分として計算